

鳥取県倉吉市における教育旅行誘致活動

鳥取県推薦 都市農村交流アドバイザー(分野:観光交流)

藤井 俊彦

(倉吉市体験型教育旅行誘致協議会・コーディネーター)

1 取組概要

「訪れる人・迎える人、共に心豊かな時を過ごせる地域」を目指し、当地域では平成19年に倉吉市体験型教育旅行誘致協議会を設立。過疎化・高齢化対策として、自然や伝統文化を活かした体験プログラムを提供し、主に教育旅行誘致を通じて交流人口の増加を図っています。都市部の学生には田舎暮らしの魅力を伝え、高齢者を中心とした地域住民には副収入や地域への愛着や誇りをもって住み続けることができる取り組みとして活動しています。



2 具体的なアドバイス内容

- 現状: 令和6年時点では、教育旅行(国内・インバウンド)の民泊体験の受入が主流。一部インバウンドの学生、一般観光客の民泊体験受入も実施。
- アドバイスの内容:
 1. 民泊体験の受入体制の構築・維持・整備(受入家庭の確保、行政・病院・警察などの地域関連組織との連携)
 2. 学校・旅行会社とのやりとり(アレルギー情報などの必要情報の収集、適切な時期に調整)
 3. 体験受入時のスケジュール管理(時系列での実施事項の確認と実行)
 4. 鳥取県体験型教育旅行誘致促進協議会や加盟団体と連携した誘致活動

円滑な民泊体験の受入には、受入体制の整備・関係者との連携・スムーズな運営・安全管理が重要で、実経験をベースとしたアドバイスを実施しています。



3 地域の変化や取組の効果と地域が変化するために必要なこと

今までの取り組みで、受入家庭同士の交流が始まっており、地域内での協力の輪が少しずつ広がっています。また体験の受け入れにおいて、近所や知人の協力を得て体験提供している家庭もあり、関係者が広がっています。現状年間約 1000 人を受け入れており、受け入れ時の食材などの購入や地元温泉施設の利用を中心に地域経済効果も出ています。

地域がさらに変化するためには、受入関係者が体験受入を通じて新たな繋がりを築き、その繋がりを少しずつ広げていくことが重要です。そして、まず関係者自身が体験受入を心から楽しむことが、訪問者にとってより深い感動、交流の素晴らしさ、田舎暮らしの魅力、満足感を生み出すことに繋がります。受入側がポジティブに楽しむ姿勢が訪問者に伝わり、地域や体験の価値が一層深まります。



4 アドバイザー自身のPR

この仕事を通じて、人の交流の大切さや楽しさを改めて実感しています。国内外から訪れた人々は、地元住民との交流や自然に感動し、迎える側も楽しみながら元気になる。このような地域が持続・発展できるよう、これからも尽力していきたいです。